

～夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子の育成～



つばさ

さいたま市立つばさ小学校

10月号 No. 6

令和8年9月30日

自助・共助・公助

校長 千明 勉

7月に発生した熊本地震や、8月に発生した千葉豪雨、そしてシルバーウィーク中に発生した台風25号により被災された皆様に対しまして、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。本校職員にも、熊本県の出身者がおりますので、他人事ではありません。

また、9月7日には、一斉臨時休業の新たな基準に基づき、前日から埼玉県南部に大雨警報の可能性があるため、市内一斉臨時休業になりました。その後も、石川県や福井県、愛知県名古屋市など、線状降水帯等の発生に伴い、全国的に多くの地域で浸水や土砂災害などの被害が発生し、自然や自然現象の恐ろしさを実感する日々が続きました。

思えば、令和5年7月に、国連のアントニオ・グテーレス事務総長は、世界的に記録的な暑さが続いていることを受け、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が来た」と警告しました。地球温暖化はこれまでも指摘されてきましたが、氷河の氷が解けて、水面の上昇や生き物の生息地の変化、大雨や干ばつ、極端な高温、台風の強大化などの異常気象を誘発し、全世界が軽視できない深刻な課題のひとつです。

学校では、文部科学省が教育課程の基準を示した小学校学習指導要領に基づき、以下のとおり、主として社会科や理科で自然に関する学習に取り組んでおります。

【社会】

- 4年生…県内における自然災害から人々を守る活動の学習
- 5年生…我が国の国土における自然災害と国民生活の関連の学習

【理科】

- 4年生…天気や自然界の水の様子 of 学習（1日の気温の変化など）
- 5年生…天気の変化の仕方の学習（雲の量や動きと関係など）

2学期の始業式では、子どもたちに向けて、自然災害への備えとして「自助・共助・公助」について話をしました。まず、「自助」です。災害が発生したとき、自分の命を守るために行動できるのは自分自身です。日頃から災害等の情報に関心を持ち、危険を予測しながら適切に判断できる力を身に付けていくことが重要です。次に、「共助」です。災害時には、地域の人々が互いに助け合うことが大きな力になります。そのためには、いざという時だけでなく、日頃から地域とのつながりを築いておくことが必須です。そして、

「公助」です。国、県、市は緊急時への備えはもちろんですが、東日本大震災以降、緊急地震速報、過去に冠水や浸水した地域情報などが示されたハザードマップ、防災アプリなど、「公助」における取組も充実してまいりました。

10月17日に北区内の避難所で一斉に開催する避難所運営訓練が開催されます。当日は本校のチャレンジスクールで活動している子どもたちも参加し、避難所での役割や助け合いの大切さを学びます。こうした経験を通して、自分の命を守る力とともに、周囲の人々と協力して地域を支える力もはぐくんでほしいと考えています。今後も、保護者、地域、学校が連携して、自然災害や防災への意識を高め、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりに努めてまいりましょう。

来月も本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。